
過去1,000年間の古気温：異なる分野からの高分解能記録統合における問題点

Philip D. JONES

古気候データは、観測記録のない歴史時代の気候変動を見積もる場合に不可欠であるが、気候復元に使われる様々なプロキシ（代替）データにはそれぞれ制約があり、利用に際しては十分な注意が必要である。樹木年輪の密度・幅、氷床コア融解層・同位体、サンゴの石灰集積・同位体、歴史時代の気温観測記録、などから求められた気温を統合して、過去1,000年間の南北両半球の平均気温を算出した結果、1690年代がもっとも低温な年代であった。また、主要な火山噴火後には一時的に気温が低下することも明らかになった。年々の気温復元結果では、北半球の1601年が過去1,000年間で最も低温であった。一方、20世紀は過去1,000年間で最も温暖な期間であり、特に1990年代は過去1,000年間で最も高温な年代になろうとしている。

Climatic Research Unit, School of Environmental Sciences, University of East Anglia,
Norwich NR4 7TJ UK